

はじめに

校長 寺本 圭一

皆さんは、子どもの頃、どんな将来を夢見ていましたか？私は、幼稚園の頃、先生に夢の絵を描くように言われて、「ウルトラマン」を描きました。今その絵を見ると、子どもだったなあと思いますが、当時は腕からスペシウム光線を出そうと真剣に練習していました。

そして、今、校長という職に就いていますが、当然こんなことになるとは想像していませんでしたし、それこそ夢にも思っていませんでした。「教師になったのは、小中高大と続けてきた野球が人生の軸だったこともあり、先生になって硬式野球部の監督がしたいと思ったからです」と、教師になった理由を聞かれた際は、いつもそのように説明していました。が、先日、小中の同級生と会った時に「寺本くん、小学校の時に『先生になりたい』って言うてたもんなあ」と言われました。本当に驚きました。こういうことは、自分の記憶よりも人の記憶が正しいものです。実は、私は小学生の頃から教師をめざしていたのです。

それぐらい、小さい時に芽生えた気持ちは捨てたものではありません。生徒の皆さんも、小さい頃に見た夢を自分では忘れているかもしれませんが、これから出会う、様々な出来事が間違いなく自分を変えてくれますが、自分の夢の種は、物心ついたときから、心のどこかにきつと埋まっていて、芽吹く時を待っていると思うのです。

さて、コロナ禍も3年が過ぎました。その間にも、人と接しないための新たな職業や職種が生まれています。今の社会は、想定外のスピードで「変化」しています。本当は「進化」と言いたいところですが、個人的には「進化」しているのは「技術」だけで、その新しいものに飛びつくだけでは、「進化」とは言えないと思います。数年前からあつという間に広がったLINEアプリできえも、すでに若者離れしているとのこと。

大切なことは、時代が変わっても、一人の人間として、自分を肯定できること、人や社会に貢献できること、そして、周りに感謝することです。

皆さんには、そのことを心に留めつつ、あらためて将来の夢を見つめ直すとともに、その夢に至るまでの一つ一つの目標達成に向けて、計画的に取り組んでほしいと思います。さらに、人とつながり、より良い人間関係を築いてほしいと思います。

東高校での毎日は、皆さんのこれからの人生をかたち作る、特に大切な時間になります。進路決定においては、自分の限界を早々に決めてしまうのではなく、過去の自分と今の自分、そして、未来の自分をつなぎ合わせ、自分の可能性を信じ、挑戦し続けてほしいと思います。

その一助として、この「進路の手引」をぜひ参考にしてください。自分だけでなく、いつも支えてくださる保護者の方との対話を忘れずに、希望の進路を実現されることを願っています。